SACHIHIRO　Tenrikyo Sachihiro Branch-Church Kouhou-shi　第２号　平成17年３月21日発行

さちひろ

天理教狭千廣分教会の広報紙

１面・人知には及びもしない神様の計画
２面・私にできる人だすけ
３面・おやさま逸話篇から
４面・教会の動き

発行：天理教狭千廣分教会　〒589-0021　大阪狭山市今熊1-1133　TEL072-365-2571
E-mail:wat@sachihiro.com　url:http://sachihiro.com　編集兼発行人・山口　渡

人知には及びもしない神様の計画

陽気ぐらしって

「陽気ぐらし」って、要するに「幸せな暮らし」とでもしておきましょうか。神様は、陽気ぐらし＝幸せな暮らしを人間にさせたいと思って人間を創められたのです。人間の生きる目的を教えてくださったんです。ですから人間には生まれながらにして幸せになる責任があると思うんです。

ところが実際には、幸せになかなかなれないので、いろいろ言い訳をしているんじゃないですか。自分はもっとお金持ちの家に生まれたら幸せになれたのに…、もうすこし頭がよかったら、器量よく生まれていたら、こんな苦労をせずともラッキーな人生をおくれたのに…。不幸でいるための理由をあげればきりがないですね。

不幸の檻に自分を閉じこめているのは、果たして自分自身なんですね。ここに気づく必要があります。

星野昂弘さんをご存じですか。中学校の体育の先生でした。クラブ活動で生徒にバク転を演技して見せたのですが、運悪く着地に失敗して首の骨を折って、頸椎損傷！以後、手足ともにまったく動かなくなってしまいました。しかし星野さんは、そうした不幸な運命を恨むことはされません。病気を呪うこともなく、口に筆をくわえて、絵を描き、詩を書かれています。最初に掲げた詩はそのひとつです。彼の絵や詩には、人の心を打つ力があります。多くのものを失った者しか気づかない人間の生きる意味への深い洞察があるからです。

バク転の事故はまことに不幸なことでしたが、その不幸を補って余りある精神の高みにたどり着いた彼の思いがこの詩によく表現されている、と思います。

「身上、事情は道の花」と言われます。辛いこと、苦しいことには、人知には及びもしない神様の計画が隠されているんです。幸せになるには、成ってくることを神様の計らいとすべて受け入れて、前向きに進むことです。その道を歩むところに素晴らし前途が開けてきます。陽気ぐらしが見えてきます。

つばき

木は自分で
動きまわることができない
神様に与えられたその場所で
精一杯枝を張り
許された高さまで
一生懸命伸びようとしている
そんな木を
私は友達のように思っている

（『風の旅』立風書房刊）

教会の動き

■朝づとめ…毎朝・6時30分
■夕づとめ…毎夕・7時30分
■元旦祭…午前7時・午後1時30分
■春季大祭…1月21日午後1時30分
■秋季大祭…10月21日午後1時30分
■月次祭…毎月21日　午後1時30分
■春・秋季霊祭…3月22日、9月22日　午後1時30分

※教会の場所は、左の地図の✿マークです。市立公民館の裏・西側です。

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■
□　よふぼくネットワーク　■
■《せきしんの集い》　□
□■□■□■□■□■□■□■□■□■

毎月、5日の午後1時から2時30分まで、狭千廣分教会で、よふぼくネットワーク「せきしんの集い」を開催しています。

天理教大阪教区阪南支部の活動ですので、教会系統に関係なく、よふぼくの方、どなたでも自由にご参加いただけます。

4月5日は、教祖百二十年祭に向けての、全国各地で展開されいるよふぼくネットワークの活動を、ビデオの映像を通して、いっしょに学びます。

地域の方々とのこうした交流を通して、お互いの信仰を深め、教理の勉強、ひのきしん・布教活動を実践して、勇んだ毎日を過ごせるよう、心の切磋琢磨に励みましょう。「せきしん」は「赤心」＝誠の心の意。

《編集後記》

▼隣接する山が宅地に造成されようとしています。予定ではもう工事が始まっているところなのですが、いろいろ経緯があって、遅れておりました。しかしようやく動き出したようです。わが家の前に5メートル以上の雍壁が、近々現出します。緑がなくなって夏の暑さとともに冬に暖かい日差しも遮られて寒さも厳しくなるものと心配が募っている昨今です。

▼広報紙「さちひろ」第2号ができました。巻頭の一文は、狭山分教会・青年会機関誌「飛躍」のQ&Aコーナーのために執筆した原稿です。こちらにも掲載させてもらいました。

▼3月は年度末の月です。進学・就職と新しい生活への切り替わりの旬ですね。心もリフレッシュして、新年度を迎えたいものです。

さちひろ　第2号
編集兼発行人・山口　渡
平成17年2月21日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
TEL・072-365-2571

http://www.simplesystems.co.jp/product/

http://www.simplesystems.co.jp/product/

天理の紹介

私にできる人だすけ

このページでは、天理を紹介します。天理市、天理教など天理にまつわるもの、いろいろを紹介したいと思っています。

2回目の今回は、天理高校の通う山口みお「私にできる人だすけ」を掲載します。天理高校は天理教の高校ですからその信仰を培う諸々の行事がありますし、正課でも「教義」の時間があって、お道の勉強もしています。この一文が載った「信条教育叢書」は天理高校教義科が編集して毎年度末に発刊されている小冊子です。この号には33人のテーマに沿った文章が掲載されています。

私にできる人だすけ

一ーK　山口 みお

わたしにできる人だすけ。いろいろ考えてみましたが、私にできる事とえば『ひのきしん』だと思います。今夏「おぢばがえりひのきしん」を通していろんな事を経験し、学ばせていただきました。

最初は正直言って「おぢばがえりひのきしん」にはあまり参加したくないと思っていました。しかしある日、私は寮で友達とぶつかってこけ、あごを5ハリ縫う大きな身上を頂きました。その時は痛いという気持ちでいっぱいでしたが、この身上を通して親神様が私に対して何か言っておられるのだと考えました。

ひのきしん精神の足りなかった私に、「このおぢばで、もっともっとひのきしんや周りの人に対する気づかい、心づかいをし、そして自分にできる人だすけをなんでもいいからやりなさい。」というふうに言っておられる、と私なりにとらえました。それからは、休みの日には参拝、土持ひのきしんにも行かせていただきました。そして「おぢばがえりひのきしん」に参加する決意をしました。

準備期間から参加しましたが、初めての経験で最初は不安でいっぱいでした。本期間に向けての草抜きやペンキ塗り、とても重い机や畳を運んだり、しんどくて大変でしたが、この作業が終わらなければ、周りのみんなに迷惑がかかるし、何より「おぢばへ帰って来る子供達のために」という思いで頑張りました。

本期間ではミラクル大冒険の誘導ひのきしん、又は子供達のカードにスタンプを押したり、通路の砂ぼこりを払ったり、子供達に喜んでもらおうと一生懸命にひのきしんに勇みました。子供達の笑顔は私の心の「オアシス」でした。その笑顔に感動して天理高校に来て本当に良かったと思うとともに、私自身「おぢばがえりひのきしん」を振り返って、人の役に立つために一生懸命尽すことは素晴らしい事だと強く感じました。

私には、大きな人だすけはまだ何も出来ないと思います。でも、周囲の人達に喜んでもらえるように、心、身体を使うことが出来ると思います。それが今の私に出来る人だすけ「ひのきしん」です。

おやさま逸話篇から

一七一　宝の山（たからのやま）

宝の山

教祖のお話に、

「大きな河に、橋杭のない橋がある。その橋を渡って行けば、宝の山に上ぼって、結構なものを頂くことが出来る。けれども、途中まで行くと、橋杭がないから揺れる。そのために、中途からかえるから、宝を頂けぬ。けれども、そこを一生懸命で、落ちないように渡って行くと、宝の山がある。山の頂上に上ぼれば、結構なものを頂けるが、途中でけわしい所があると、そこからかえるから、宝が頂けないのやで。」

と、お聞かせ下された。

■『稿本天理教教祖伝逸話篇』

『教祖伝』を信仰の立場から補い身近におやさまに接することができるようにとの思いから編まれたのが『稿本天理教教祖伝逸話篇』です。このページでは、そのなかから適宜紹介していきます。

■信仰的成人の道中（過程）を説かれた逸話と考えます。旧約聖書・ヨブ記のテーマと相通じるものがあると思います。

ヨブ記の試練は神がヨブに課したものであることは、旧約聖書の本文から読み取れますが、逸話篇の、「途中まで行くと、橋杭がないから揺れる」とか「山の頂上に上ぼれば、結構なものを頂けるが、途中でけわしい所があると、そこからかえるから、宝が頂けないのやで」というような表現には、それを神がなしているという文脈が見えにくいですね。信仰と懐疑との間で揺れる人間の心を、揺れる吊り橋のイメージに重ねて表現されたものと考えます。

しかし、神の試練（不合理、矛盾、不可解な人生）を乗り越えたところに、至福の世界があります。神を信じる者の苦難の経験が真実のたすけに浴する重要な要件とも思えます。逸話篇の「宝の山」というのは、このような至福のたすけ、「ここがこの世のごくらくや」と言われる陽気ぐらしの世界を言われたものです。いかなることがあろうとも、苦難・試練を、敬虔な信仰と「たんのう」の心（すべてを神の配慮として受け入れる柔軟でしなやかな心）で通りたいものです。